

関西詩人協会会報

第100号
2021.1.10

発行者 左子真由美

新年のご挨拶

関西詩人協会代表 左子真由美



紙上総会報告

★八月運営委員会で新型コロナ感染拡大の傾向をみて、今年度の総会は紙面によるものとすることに決定しました。

★十月運営委員会で紙面による総会報告の確定をし、十一月初旬に各会員宛に九頁の資料と返信用にハガキをお送りしました。

★十一月に出席可能な新旧役員二二名による臨時運営委員会を開催して、その数を集計しました。

全会員一四七名中の一四九名の賛同をもちまして、今回の議題の

○一年間の経過報告・会計報告
○来年度の年間計画・予算報告

○二〇二一年度から三年間の運営委員承認が成立したことを報告いたします。統いて葉書に書かれていたご意見を披露します。

①HPに投稿欄をつけてほしい（メールと連動させるなどして）

・ネットでの妨害行為などがあると思うのでとても難しいが、条件により、

方針性を検討

②ネットの若者を取り込めないか

・今後何らかの工夫に向かって検討

③詩画展に工夫を

・これだけの文言では理解がしがたいが基本的には従来通りでやつていく

④「泥の河」の文学散歩をしてほしい

・コロナ収束状況で実施可能

⑤村田さんの逝去により「言葉の花火」はどうなるのか

・全体で協力体制を組みながら是非続けていきたい

⑥総会費用を取るべきではない

・課題提案として捉える

*その他 楽しいバスツアー希望・ビデオ担当をつくるべき (文責 永井)

行く道は次々にふさがり
僕の胸は暗い石炭で一杯だ
けれども燃えるぞ
今に声あげて燃えるぞ

ストーブ

みなさま、あけましておめでとうございます。昨年は一年を通して新型コロナウイルスに翻弄された年でした。会員のみなさまのご無事を何よりも祈っています。

協会では、予定していた一年間の行事が全く行えませんでしたが、『紙上詩画展』や緊急コロナアンソロジー『いのちを抱いて歩もう』を企画し、出版しました。『紙上詩画展』は会場に足を運ばなくても作品が味わえると、多くの方から大好評を得ました。また、本紙に同封されております『いのちを抱いて歩もう』もコロナ禍のこの時期、多くの方に共感していただけるものと思っています。そして、この暗い時代をきっと元気にすることでしょう。

私たちは詩人の団体です。幸い、ウィルスも書くという行為まで犯すことはできません。ペンを執つて、発信していくことに何ら不自由はありません。

今年もぜひ大いに書き、大いに発表しましょう！そのためにはまず健康に気をつけて、お互い元気でおりましょう。そして、今年こそ関西詩人協会のイベントほか様々な催しでお目にかかりますように。最後に関西詩人協会初代代表の杉山平一さんの詩を引用させていただいて、ご挨拶を終えたいと思います。

(『夜學生』昭和18年刊より)

①新年の御挨拶・左子真由美代表／紙上総会報告②新役員紹介／永井ますみ・島秀生・高丸もと子・阪井達生・森下和真・北口汀子・嵯峨京子③速水晃・松村信人・田島廣子・阪南太郎・吉田定一④美濃吉昭・和比古・中尾彰秀・今井豊・市原礼子・船曳秀隆・名古きよえ⑤司由衣・大倉元神田さよ／下記二冊をお買い上げ下さい／入退会／入会をお勧め下さい／年会費入金のお願い／コロナ情報⑥新入会員の紹介川本多紀夫・後藤幸代・三好弘泰⑦三石博行／運営委員会の模様⑧会員の活動／会員の発行する詩誌／会員の発行する詩書／詩集短評・山田兼士／今後の活動／団体の会報

新役員の紹介

事務局長
歩み
文学散会
永井ます



引き続いだ事務局長の大任を負わせていただきます。前期は不意打ちのコロナ禍でコテンパンにやられましたが、三密を避けて、こつそりと事業をしていきたいと思います。

第一に体調管理。
第二に小規模な出逢い。
第三に出逢わなくても参加できる何かを、といった处かなあと考えています。

務歩
島秀生
散文



しまって、総会に行くと寂しいなあと思うことしきりです。自分が受けた恩というのは、いつか返さなきやいけないと思う。抱負なんかじやとてもないけれど、それが私が運営委員を引き受けた理由です。

書記
高丸もと子



関西詩人協会には随分前から入会していましたが、ただ名前だけの参加でした。それが今では、ちょっとびり惜しいことをした気になっています。というのも、詩を楽しむ取り組みが今までにも多岐に亘り、なされたてきたのを知ったからです。

詩画展、詩のひろばでの詩の発表、文学散步、音楽・朗読・講演などをコラボさせたイベント等々。どれも自由で気楽に参加できるものばかり。つい友人を誘つてみたくなります。

運営委員会では、これらを楽しんでもらうために事務局と係の人を中心に関心を出し合い決めていきます。途中から参加した私は、運営委員の皆さんの責任感の強さ、的確な事務処理、企画運営の工夫、推進に唯々驚くばかりでした。

新年度が始まりました。会員の皆さんとの出会いも楽しみです。一緒に活動の場を広げていきましょう。

書記
阪井達生



詩との出会いは十九歳で、七十年の少し

関西詩人協会って、いつ出来たんでした。つけ? おつと、総務ともなると、こんなこと人に聞いてちやいけませんね。ともあれ、私、関西詩人協会設立当初から、おります。はじつこの方ではそぼそと自分勝手に参加してきました。

私としやべつたつて、なんのメリットもないと思うのに、歴代運営委員さんの中には、いつもボツンと一人で参加する私と、親しくしやべつて下さる方がいました。また総会に行つたら、あの人としやべつてくとがあります。あの、親しくしやべつてくれた何人か、あの人もこの人も先立たれて

前だった。当時は政治色の強いサークル詩の全盛のころ。手作りの詩集が街頭で売られていた。高くて二百円くらいだったか。それを見も知らない人が平気で買つていた。それだけ詩が身近? にあつたのだろう。私は就職が決まって、社会に出ると、こんどは詩が書けなくなつていった。

詩との再度の出会いは六十歳を過ぎて、数年仕事をやめてからだつた。その間の四十年はたしかに充実した時間だつたが、なかに大切なものを置き忘れていたことに、今やつと気が付いた。詩作は自分の居場所を探す、旅のようなものだと思つてゐる。若いころのように、詩は自己の意見や感性を他人に押しつけるものではない。私が見つけた言葉で、読者の想像力に火をつけたいと思つて書き続けている。

会報
森下和真



会報担当になつた森下和真です。以前から、文字や文章を伝える、ということに関する心がありました。別団体では詩誌の編集を作成などをしてきました。文字や文章をレイアウトしてわかりやすく伝えると、うなごはりました。会報担当として、会はもちろん、各会員の伝えたいと思っている誰かの手助けをするようなことだと思います。今回、会報担当ということで、会はもちろん、深奥に関わっている事を考へる時、断絶ではない豊かな孤独があることを噛みしめ、「詩の力」を伝えていきたいと思います。

名簿・入退会
嵯峨京子



どの係もそうですが私の担当する係は、会員の皆様のご協力なしには、成立しない部署です。折角入会してくださつても、高齢化に伴う退会者が、それを上回るのはさびしい限りです。それを解消するには入会

会計
北口汀子



発足当時に入会、イベントや総会などに参加して参りました。今回は会計を担当と、通り一遍の挨拶はさておき、昨年度の運びとなり、責任を果すべく努めます。それにも、三密を避けるための人との物理的な距離が、心の距離になってしまふ危険もあり、孤独感や閉塞感に苦しむ人がいる、とも聞きます。私たち詩人は、詩作と言ふ孤独な営みを通して、人間の心の深奥に関わっている事を考へる時、断絶ではない豊かな孤独があることを噛みしめ、「詩の力」を伝えていきたいと思ひます。

者をご紹介いただくことしかありません。六年前初めて担当した時、出来上がつてから多くのミスが見つかり、発送直前に慌てて訂正紙を挟み込んだものでした。言い訳になりますが、その頃私は、一度は全快していなかった男の痛が七年経つて再発し、病院探しに奔走していた時期だったものもあり、大失敗をしてしまいました。

名簿は何よりも正確であること。その時の苦い経験から、正確な名簿を作ることも目標にしています。そのためには、会員の皆様からの正確な情報が第一です。転居された場合、メールアドレスの変更、携帯電話など、変更のある方は速やかに事務局までお知らせくださいませ。

名簿・入退会 速水 晃



年輪を感じる老いには到達できませんが、明日への、文学への希望という節を刻もうと考えています。

ホームページ 松村信人



現在HPの中心は毎月更新の「会員のエッセイ」三ヵ月ごとの「会員の詩」そして随時掲載の「会員の活動」で成り立っています。

今期はコロナ禍のおりであらゆるイベントが中止のやむなきに至り、目立った活動記録がありませんでした。このコロナ禍の影響がいつまで続くのかはわかりませんが、こうした中でも前向きなニュースを掴みHPに活用できればと思います。

一方、HPの閲覧数は平均すると月にほぼ百件前後です。まだまだ紙媒体が情報発信に欠かせないのが実情です。ただ今回の全世界規模のコロナ危機によって、生活様式が変わり、色々な場面でのIT化が進んできています。そしてこの傾向はさらに強まつてくると思います。

空は高く暗い、尾灯光らせ、飛行機は南の島へ向かっているのだろうか。十一月中旬、関西に戻つて六年目を迎えた。心をほぐしてくれたものの一つは、慣れ親しんだ言葉の柔らかさ、抑揚がありました。縁あり永井ますみさんには文学散歩等に誘われ、参加するばかりではと、当協会に入会を願い出て、何の協力もできないまま日を過ごす運営委員になれとは。断つても断つても、「わかりました」とは言わない選管の吉田定一さんよ、「転んでもただでも起きる」あなたの情熱を失うことなく粘り強く努力する力、視点を変え柔軟な発想で押してくれる力は大いなる表象となるのでしよう。

コロナ禍、運営委員会に出席できない爺で申し訳ないと、事務局長の永井さんにメールをすれば「速水さん爺なら私は婆よ、共に倒れずがんばりましょう」とのお返し。

ホームページ 田島廣子



らやっています。自選詩集から詩を選んだり、エッセイの依頼の確認などです。同じ人が載らないよう注意しています。時には「詩のひろば」にも載っていたりで、載ったことのない人には思っています。詩の方は本人の最近の写真が必要になります。時にエッセイは字数は600~800字で、テーマは自由ですので、あわてないよう準備をお願いします。締め切りは毎月25日で翌月の初めには載ります。メールで送つていただければ助かります。afvtf402@oct.zaq.ne.jp 原稿は必ず松村さんと田島に送つてください。今度はあなたが書いて欲しい人を選んで、速やかに依頼します。次は〇〇さんと連絡をください。

なるべく沢山の参加をして戴きたいので、連絡を忘れないようにしてくださいね。（ホウレンソウ）報告・連絡・相談でよろしくお願ひします。手書きの方は田島廣子へ。

〒546-0012 大阪市東住吉区中野3-12-3ドミニル春光310
携帯番号 090-8232-3370
携帯メール hiroko.tajima@ezweb.ne.jp

詩のひろば 阪南太郎



して詩の心を学ぶことが出来ました。今、関西詩人協会の一員であることを、幸せに思います。

これから入会されるみなさんにも、同じように感じていただけるように、精一杯頑張ります。

「詩のひろば」は皆さん心をこめて書かれた作品を多くの方々に伝えると言う、大切な任務ですので、先輩方に習いながらいいページを創りたいと思います。

詩画展 吉田定一



そう思うようになったのは、文学活動の場として「関西詩人協会」に入会し、会の運営委員の一人として参画して、良き詩人仲間と出会つたことにある。刺激はあった。それは、表現の主軸を「詩としての児童文学」から「現代詩」へと移行しつつある自己の存在に気付いたことにある。

当協会の運営委員を務めて3期目に入りました。担当は「書記」から、現在「詩画展」を発刊し、参加者以外に協会全員にも配布し好評であった。

私は、2017年に佐古祐二さんに声をかけていただき入会しました。

入会後、ずっと前から作品を愛読していました。詩人の方々の姿を、間近で見ることができましたし、声をかけて下さった方もいらつしやいました。

また入会してからお名前を覚えた方々からも、作品を読ませて頂いたり、朗読を聞かせて頂いたり、テーブルを囲んでお話し

松村信人さんと一緒に、話し合いながら

ら、作品を読ませて頂いたり、朗読を聞かせて頂いたり、テーブルを囲んでお話し

来年は、どうなるか。会場次第であるが、従来通りの展示を基本としつつ、柔軟に対